会津新選組
慶応4年(1868)

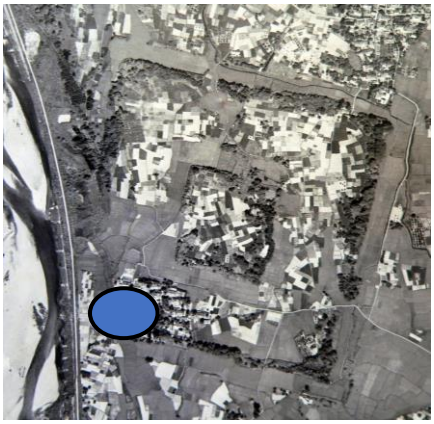
宇都宮城の4月23日の戦い後、幕府軍と新選組は日光に留まります。そして、土方歳三らは山王峠から田島に入り、4月27日若松城下七日町清水屋旅館に約130人で留まります。土方が、宇都宮の戦いで傷を湯治した東山温泉の不動の湯。現「新瀧の不動湯」。

一八六八年、四月二十日から西軍の攻撃が白河城で開始されます。五月一日の白河城の戦いで新選組は白河の脇本陣を本拠として戦います。敗戦後、郡山市湖南町福良の本陣に入り、郡山市湖南町福良を本陣とし、龍伏寺で傷を癒しました。

西軍の進行とともに、母成峠へ向い八月二十一日戦います。斎藤一は東側の勝岩の方面を守備していましたが敗戦。隊は二つに分かれ、一隊は秋元原に逃れ、土方歳三と斎藤一は、戸ノ口へ向かいます。その後、斎藤一は天寧寺へ向います。八月二十三日、戸ノ口原での敗戦後、若松城下にいた隊は、喜多方市塩川町へ向い、さらに裏磐梯大塩温泉へ行きました。土方歳三が二十五日、米沢藩に入りますが、米沢藩は裏切ったことが判明し、箱館に向う土方歳三と会津に残るとして斎藤一は二十六日別れます。その時斎藤一が「落城せんとするを見て、志を捨て去る、誠義にあらず」『谷口四郎兵衛日記』と語り、大鳥圭介とともに塩川に転陣します。

九月一日、斎藤一は大鳥圭介隊とともに喜多方市山都町小布瀬に到着、翌日同町の陣ケ峰に移動、三日と四日は同町の長窪で戦いますが敗戦。翌日、衝鉾隊の基地となっていた神指城二ノ丸如来堂へ行こうとしますが、衝鉾隊は、北方小荒井への応援要請がありすでにいませんでした。そのため、衝鉾隊とはすれ違いとなります。九月五日朝、如来堂では、若松城下から進行してきた西軍に取り囲まれ、十三人が戦いますが戦死者はいませんでした。斎藤一らは、会津盆地南西の高田へ逃れ、高田での敗北後、大内を経て田島に逃れます。そこで半分は水戸へ行き、半分は南会津に残り戦い降伏し、塩川へ送られ、その後、越後の高田藩に送られました。

斎藤一の墓は、会津若松市七日町の阿弥陀寺にあります。



昭和38年の神指城。旧幕府軍の衝鉾隊が9月4日まで滞在拠点としてい神指城二ノ丸の如来堂。この城は、直江兼続が指揮監督して築いた未完成の平城で面積は約55ヘクタール、若松城の2倍あり。

会津若松市東山町天寧寺
近藤勇の墓

一八六八年四月、近藤勇は千葉の流山で捕まり、江戸板橋の刑場で四月二十五日処刑され、京都の三条大橋に「さらし首」となります。その後、首は行方不明となりますが、会津に運ばれたと当時から噂されていました。

会津藩では墓を建てます。「松平容保公、天寧寺山の上に閏四月二十五日に相建、法名「貫天院殿純忠誠義大居士」と云」『島田魁日記』

戒名は容保公が付けます。

白河城下での敗戦後、母成峠に転陣するまで滞在していた郡山市湖南町の福良本陣跡

図・写真・文　©石田明夫2017　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。